

河童倶楽部

屋内プールオープンを機に ささらに飛躍

一般社団法人福島県水泳連盟

理事長 三浦 誠

会員の皆様、明けましておめでとございます。

昨年は、私たちの悲願であった屋内プール（郡山しんきん開成山プール）が多くの皆様方のお力により郡山市に七月二十一日オープンしました。県中学校選手権を皮切りに、県高校新人大会・東北高校新人大会・萩智杯と県主催の大会を開催し無事に終了することが出来ました。

しかし大会を開催するに今までの会場では思いも付かないような様々な課題が分かり、混乱もしましたが、その度に経験豊かな競技部長田中先生の指示の元、各関係団体（中体連・高体連・ジュニア委員会・県中水泳連盟）の皆さんが良く話し合い知恵を出し合いながら工夫し、大会を成功させることが出来ました。特に音響関係の丹野先生、映像関係の赤沢先生は私物機材（非常に高価で連盟では購入が出来ません。）を持ち込み、素晴らしい大会環境を作り上げていただきました。他県から来た方々からも素晴らしい大会（会場）だとお褒めをいただきうれしく思いました。競技役員の皆様方にとっても慣れない会場、大会運営で今まで以上に

ご負担をおかけすることに
もなりますが、老岐会長がいつも言われているように「選手のために私たち大人ががんばる！」を頭におき、素晴らしい環境の中で大会運営ができる喜びを感じて頑張つて欲しいと思います。

強化については、愛媛国体少年男子Bに出場した安齋吐空・岩崎幹大・但野智哉選手達が表彰台には届きませんでした。久しぶりに入賞することが出来ました。三人はこれからの福島を背負っていく選手であると思います。郡山のプールを上手に活用しながら強化を行い、今年以上の活躍をして欲しいと思います。

本年度も郡山のプールを利用して多くの大会や行事が計画されています。県中水泳連盟の皆様方には今まで以上に多くの負担をかけることになる事と思いますが、『福島はひとつ』という合言葉で頑張つて頂きたいと思えます。山本会長よろしくお願ひします。

本年もよろしく

お願ひします。



大会運営を見つめる目



初日の出 原町区小浜の海岸
撮影・辻信衛氏

選手のために 私たち大人が がんばる！

『水泳選手の情操教育の実践』

相双水泳連盟 真鍋昭由
(スポーツアカデミー相馬)

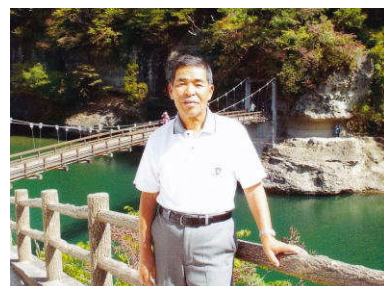
スポーツアカデミーが相馬に進出して26年になります。会社運営の基本に『心と体のスポーツコミュニケーション』があります。特に水泳選手としては挨拶の徹底がいかに出来るかです。

プールの出入口、プールサイド、これはどこでもお目にかかりますが、玄関での挨拶になると少なくなります。

選手と一般会員が同居して行動している夜8時頃に選手が帰宅する時、フロントに多くのお客様がいても「ありがとうございます」と帰宅していく姿を見て「よく教育が出来ていますね。聞いていて気持ちが良いですよ!!」

のお褒めの言葉を頂きます。ここに至るまでの選手担当コーチの粘り強い指導の賜物だと感謝です。

教育は学校、家庭、社会の三本柱であり、私たちは社会教育の一端を担っている、しつけ、情操教育がスポーツを始める



塔のへつりににて

前の基礎と考え、実践し、少しばかりではあります。成果が出てきました。『やつてみせ、言つて聞かせ、させてみて、褒めてやらねば、人は動かじ』先日、山本五十六の名言を思い出しました。現場は理論も必要ですが、実行・実践にある、必ず成果は生まれると信じて邁進です。

リレーエッセイ

河童道



平成29年度常任理事会・理事会

12月2日 コラッセふくしま会議室

今年度事業報告、来年度事業計画、愛媛国体各部・委員会活動報告されました



飛込競技の 進展を願って

新飛込委員長
小野寺光喜

このたび、飛込委員長に就任しました、小野寺光喜（塩川中）です。飛込競技の進展に少しでも寄与できるように努力する所存です。

本県の飛込競技は、現在ジュニアを含めて20名ほどの選手が練習に励んでいます。練習は、郡山地区と会津若松地区に分かれています。全国大会レベル（インカレ・JOC）の選手は、

県立清陵情報高校の西川先生のもと、強化選手として遠征合宿・練習に励んでいます。特に、冬期間は、室内プールを求めて、他県にも遠征しています。会津地区でも、トランポリンを使用しているジュニアに対しての取り組みが強化されています。これから成長がとて楽しみです。

私事になりますが、花火で有名な長岡市のダイエープロビスフェニックスプールにて、昨年インカレの審判をさせていただきました。

今までの大会では、見えていたはずの演技ポイントが大学生のレベルになると十分に見えていない事を痛感させられました。

競泳とは異なり、採点者である審判員の点数の総和（上下2審判分がカットされ、3名の合計に難易率が掛けられ得点）で勝負が決まります。審判員としての「目」を絶えず磨き、向上させるための努力を継続していく事が求められています。選手とともに審判員としてのトレーニングに努力しなければなりません。

5年後の「青森国体に向けて」を議題に東北ブロック飛込委員長会議が昨年末に開かれジュニアの競技力向上に向けて、新しい強化事業計画が示されました。東北6県のどの選手でも各県の優秀なコーチに直接指導を仰ぐ事ができる計画です。また、若いコーチがベテランコーチの指導方法を直接、見聞きして吸収できるチャンスでもあります。この事業を成功させ、本県からもJOC、全中、インターハイ、インカレ、国体入賞者を多数出せるよう努力していききたいと思えます。

新役員紹介！

新理事に小野寺光喜飛込委員長、吉川英司日本泳法委員長が就任されました



吉川委員長



小野寺委員長

第72回国民体育大会に参加して

オープンウォーター国体監督 菊地隆一郎（大教SS郡山北）



国体正式種目になり、2年目のオープンウォータースイミングに2名参加し、結果は男子寺田拓未（日体大）14位、女子鈴木冬乃（日大東北高校）31位となりました。

大会当日の天候は雨のち晴れ、気温30度、水温24度、ウェットスーツは着用せずに参加しました。今回は1周約600mのため、ハイペースでのレースとなりました。寺田選手については先頭から大きく離れる事なく、第二集団でのレース展開となりました。海で練習は行っていたものの、競技会への参加は初めてだったため、ペース配分が難しかったとのことでした。初出場でこの結果は好結果ではないかと思えます。今後レース経験を積むことで、十分に上位を狙えると感じました。



オープンウォーターは、競泳種目と、両種目でエントリー可能になった事や、大学生の参加が増えてきたため、持久力だけではなく競泳のレベルを上げていく必要性を感じました。女子であれば長水路で800m9分を切る事が出来る選手であれば、十分に入賞も狙えるようになってくると思います。

今後の課題と問題点について、1つ目は経験を積むこと。海でレースをすることがマレであるため各地方で行われている競技会に参加し、テクニクなどを学んでいく。2つ目に指導者の育成。基本的には競泳のレベル向上を一番に考えていく必要があるが、考え方やルールは競泳とは全く違うため、専門知識が必要になってくると考えます。以上を踏まえ来年以降も福島県のために、今自分が出来ることを考えて、選手のために行動していきたいと思えます。